

米国 フロリダ州政府がカンキツグリーニング病の対策を承認

FRUITNET 2023年8月29日

インバイオ社がオレンジのカンキツグリーニング病抑制技術を初登録

バイオプラットフォーム企業のインバイオサイエンス(Invaio Sciences)社は、オレンジのカンキツグリーニング病を抑制する柑橘類用薬剤溶液が、連邦殺虫剤・殺菌剤及び殺鼠剤法(FIFRA)の第24条(c)*¹に基づき、フロリダ州農業コミュニティサービス局(FDACS)の承認を得たと発表した。

同社によると、ミカンキジラミによって拡散され、黄龍病(HLB)としても知られ、20年近くフロリダ州の生産者の悩みの種であったカンキツグリーニング病を、その薬剤溶液は治療する。

この治療では、同社のトレサイス(Trecise)技術を用いてアルボルバイオティック(ArborBiotic*²)を注入する。同社は、従来の薬剤注入治療とは異なり、この技術を用いた低侵襲システム*³は樹木の維管束に直接有効成分を送り込むため、必要な有効成分が90%少なく済むと説明している。

同社の創業者兼CEOであるイグナシオ・マルティネス氏は、「弊社のトレサイス技術は、15年以上にわたって業界を荒廃させてきたカンキツグリーニング病との戦いに真のブレークスルーを提供する。これは、生産者、作物、環境に利益をもたらす弊社の多くのテクノロジーの最初のものである」と述べた。

この溶液の試験では、たった1回の施用で平均30%の収量増加、糖度の向上、落果率の低下が示されたと同社は概要を説明している。

5代目の柑橘類生産者であるネッド・ハンコック氏は、「インバイオ社が行っていることに本当に驚いている。我々の業界が真に新しいテクノロジーを目にしたのは、私の人生でおそらくこれが初めてだ。これは、柑橘類の管理方法に革命をもたらす可能性があると思う」と述べた。

同社は、トレサイスシステムには生産者とそのシステムの利用者にとっていくつかの重要な利点があるとしている。それは、使用期限が収穫の120日前までなので従来の注入処理よりも60日遅くまで利用できること、ドリルで穴をあける必要がないため処置の選択肢がほとんどない若い果樹に適していること等である。

また、有効成分を果樹の維管束に直接適用するため、より低い濃度で同等の有効性が得られ、誤用や残留のリスクを減らし、労働者や環境への曝露のリスクを減らすと同社は指摘している。

同社の米国担当営業責任者であるデイブ・ジェラード氏は、「弊社はトレサイスシステムを発売することを大変嬉しく思っており、フロリダ州の柑橘類産業の将来について楽観的である。最初は若い未結果の果樹の処置に焦点を当てることによって、結果樹齢に達した際に病状を最小限に抑えることができることを示し、改植に対する不安を取り除きたいと考えている。これは最初のステップに過ぎない。弊社は、フロリダ州の柑橘類生産者がカンキツグリーニング病が蔓延する前の収量を取り戻すのに役立つ、さらなる解決策を提供するために取り組んでいる」と述べた。

執筆者: カール・コレン

訳注

- *1 連邦殺虫剤・殺菌剤及び殺鼠剤法(FIFRA)の第24条(c)は、すでに連邦レベルで登録済みの農薬を、特定の地域において追加の目的のために登録することを認めています。
- *2 ArborBioticは、ファイトプラズマ等の治療に使用される水溶性で注入可能な抗生物質の商標です。
- *3 低侵襲システムは、体組織への損傷や干渉をできるだけ少なくした方法やアプローチを指します。

この翻訳は、技術や取り組み等を紹介するためのものであり、特定の企業、技術、商品等を推奨するものではありません。

(2024年3月に「黄龍病」の表記を修正しました。)

